

学校事務実践講座

子どもの就学保障を考える

～等しく学べる教育環境をめざして～

12月に、25年度学校事務実践講座を24人の参加を得てラッセホールで開催しました。この講座は、兵庫教育文化研究所学校行財政部会が、学校事務職員の「より積極的な学校運営への参画」をめざす中で、学校事務職員の「研修」の一つとして企画・実施しています。

今次講座では、22年2月に発行したリポート『子どもの就学保障を考える』をもとに、さまざまな教育格差が存在することを知り、さらに各地域組合の実態等を意見交流する中で、「等しく学べる教育環境」を整備するために学校事務職員としてどのようなアプローチができるのかを「財務管理」と「施設管理」の観点から考えることを目的に開催しました。

憲法等により、子どもは「生まれ育った環境に左右されることなく、教育を受ける権利」が保障されています。しかし、現状は家庭の経済力と自治体の財政力それぞれの格差から「等しく学べる教育環境」が整備されず、教育格差が生じています。この教育格差に対して、子どもや保護者にとって最も身近な行政機関である学校において、教職員がどのようなアプローチができるのかを考える必要性について具体例とともに提起しました。またアプローチにあたっては、地域や各関係機関との連携も大切であることも示しました。

後半のグループワークでは、問題提起を受けて、主に「財務管理」と「施設管理」の観点から、学校事務職員として果たすべき役割を考えるとともに、各地域組合の実態等について事前アンケートの集計結果も参考にしながら意見交流しました。

あわせて、各学校での安全・安心な学校施設の維持、管理についても交流しました。



受講した参加者からは、「『等しく学べる教育環境』のために事務職員として、また教職員としてできることは何か、考えさせられる内容でした。教職員全員が当事者意識をもってとりにくんでいくことが大切であると感じました」、「修繕のアウトソーシング化や保護者負担を減らす方法、施設清掃等、新しい考え方や具体的な方法を知ることができ、有意義な時間となりました。地域組合に戻って全体共有や提案をしていきます」、「組合ならではの労働問題の観点も組み入れながら、活発な話し合いができるのが実践講座の魅力だと思います」といった感想がありました。

参加者のみなさんが本講座で得た学びをもとにして、すべての教職員がそれぞれの職種の専門性を生かしながら、協力・協働のもと子どもの就学保障を考え、等しく学べる教育環境整備のとりくみをさらにすすめていくきっかけとなることを期待しています。

『子どもの就学保障を考える』のリポートは各地域組合・分会・事務職員部組合員に配付済みですが、兵教組 HP(組合員専用ページ)にも掲載していますので、ご覧ください。
【ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください】

